

《3. 11 私たちは忘れない東日本大震災・東電福島第一原発事故から14年の
浪江・福島の声聞き、歌を歌う交流会》



写真：中筋純（上段：震災直後の被災した新町通り商店街／下段：更地になりつつある商店街）

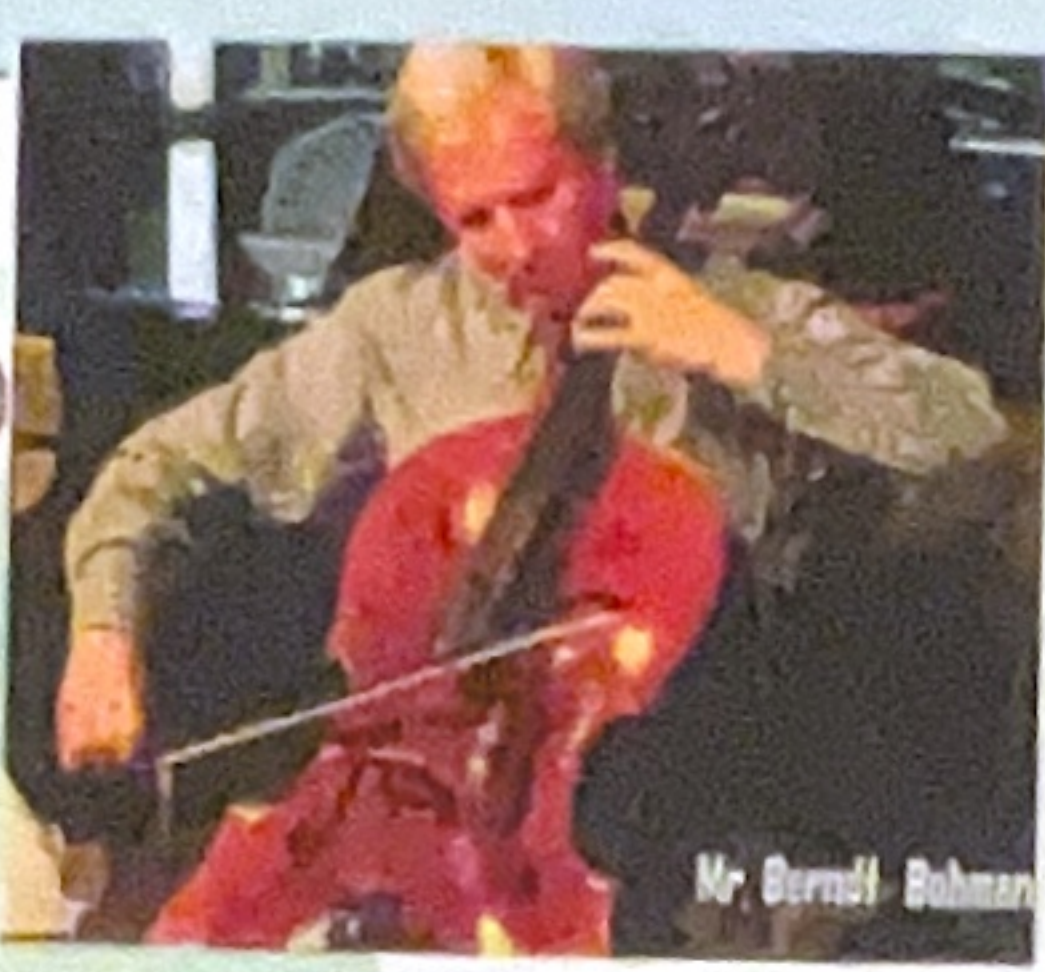
主催：『被災地にとどけ！歌の力』浪江・福島交流実行委員会

2025年3月11日(火)
歌声喫茶ともしび

12時30分開場
13時～15時30分終演予定

参加費：2,000円、避難者500円
(ドリンク付き)
定員50名

申込：ともしび事務センター
Tel.03-6914-1621



ゲスト出演決定



東日本大震災・東京電力福島第一原発事故から14年が経ちました。
浪江町役場発表では、原発事故時21,500人いた浪江町民の内、2024年12月1日現在で浪江町に戻った人は1,455人(7%)です。現在も町の面積の8割が、放射能汚染のため帰宅困難区域に指定されています。また、通常百万人に1人か2人しか発症しないとされている小児性甲状腺がんの子どもが、福島県では400人を超えているそうです。
なかなか公にされない話題を、皆さま方と共有したいと企画しました。是非、足をお運びいただけますよう宜しくお願いします。

●第一部

「子どもも脱被ばく裁判」
原告代表、今野寿美雄氏のお話
「子どもを被ばくから護らず原発再稼働を進める人権侵害国家(2024.11.29最高裁上告棄却に思う)」



国会前行動にて(今野寿美雄氏)

●第二部

「浪江を語ろう！」から振り返る浪江町の歴史・文化対談
西村慎太郎氏(歴史学者)×三原由起子(浪江町出身歌人)

●第三部

・みんなで歌う交流会
「浪江小学校校歌」「私の子供達へ」
「群青」「釜石小学校校歌」「しあわせ運べるように」他、能登半島地震や各地で相次いだ災害にも思いを寄せて歌い交わしましょう。
・各地からのビデオレター